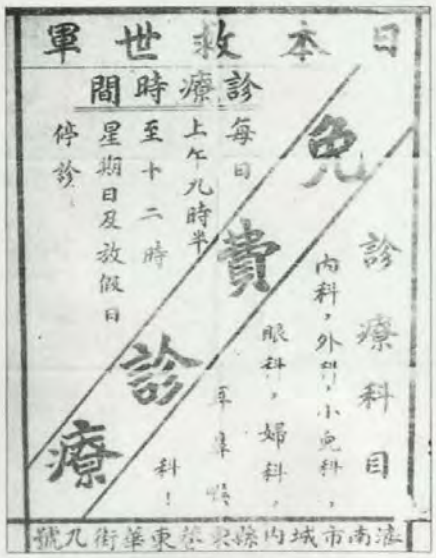
上・下右：『救世軍日本開戦100年記念写真集』
（救世軍本営、1997年）より
「中国大陸での医療奉仕活動」
下左：『ときのこゑ』1939年5月1日

〔中国大陸での医療奉仕活動〕

1938年（昭和13）「報国茶屋」で歯科診療を始め、兵隊や現地住民に喜ばれる。
翌年には医師、看護婦数名を派遣し、診療所を設け「免費診療」を行った。



診療所の案内板

患者さんと共に

日支親善は婦人から

濟南に著いた佐藤院長一行

濟南に著いてから今日は第三日目、救世軍報國茶屋」は早朝から御奉仕に忙がしく、「愛國行進曲」や「父よあなたは強かつた」等が、それからそれへとひつきりなしに響いて來る。ピンポンは夕闇迫るまでも休みなく、これ亦兵隊さんに喜ばれてゐる。山崎女醫もなかなかのチャンピオンで、兵隊さんの御相手は「報國茶屋」に一段と活氣を添へてゐます。理髮部も次から次へとみます。部屋の間取を見、診療室、藥局等の配置を考察しながら見廻つてゐると、綺麗な若い婦人が三人、窓の外から、しきりに覗いてゐるので、ドアーを開けると、何の躊躇する所もなく、進んで入つて來て、ニコ〳〵笑顏を湛へてゐる。おど〳〵した樣子は何處にも見られない。柳川少佐の通譯で、一人は裏の家の娘で十五歳であることがわかる。言葉は通じないが、日支の婦人と婦人との親善はもう第一日から結ばれて、私共に非常な喜と希望とを與へられ、日支親善は醫療から、女醫から、婦人から。此の事實を目の當に見ることが出來、感謝すると共に、私共の責任と使命との重大なることを、一層、痛感した次第であります。何れまた後便にて申上げます。（三月二十七日　濟南にて　救世軍病院長　佐藤理三郎）

藥石言

人の有するもので、長く殘るものは金錢でも榮譽でもない。品性の輝である。

♡

自己の地位を築くことよりも、神の

濟南の「救世軍報國茶屋」
ピンポンに勞苦を忘るゝ軍人

1939年（昭和14）３月　新聞の記事

『ときのこゑ』
1939年5月15日

支那人患者大喜び
濟南の救世軍診療所

北支濟南城内東華街九號に設置された「日本救世軍濟南診療所」は、いよいよ去る四月十三日より、診療を開始した。左は佐藤救世軍病院長からの手紙。

今日は診療を開始してより第四日目であります。「救世軍報國茶屋」を出で、公共汽車(乘合バス)に乘る。途中に在る部隊と、通ふ一、二の兵隊さんの外は、全部支那の人々でありますが、至極なごやかであります。初めは洋車(人力車)で通ひましたが、一度バスに乘つたら、誰もがバス黨になつてしまひ、毎日バスで、全く支那人と一緒に乘合つてゐます。初は一寸恐いやうな氣がしましたが、今ではもう歩くのが樂しみになつてゐます。沿道の人々も好意の視線を投げかけてゐるやうに思はれます。かうした日支親善の實行に、最も相應しい場所を選び、お骨折下さつた當局の方々、及び柳川少佐等に厚く感謝するのであります。救世軍診療所」に著きますと、もう多數の患者が待つてゐます。二、三日前からの顔なじみもかなりゐて、ニコ〳〵して迎へて呉れます。憩ふ間もなく、直ちに診療にとりかゝる。老僕は患者の順番の整理に大變であります。開所早々であり、新患が多いため、劉中尉の手を煩すこと甚だ大で、住所姓名から既往症現症まで記載に務め、實に一寸の暇もない有樣であります。内科、眼科、皮膚科、耳鼻科、外科等さま〴〵な病人が押しかけて來ます。山崎先生(女醫)も看護婦の姉妹たちも、テンテコ舞です。大人も子供も婦人も男も、暇い日當のよい

日本救世軍濟南診療所
向つて右より(一)診察室(二)藥局(三)診療所に出動した所(四)準備終つたひと時。

藥を服んだら、もう嘘か止まりましたと、母親は大喜び、皮膚病の老人が痒みが殆どなくなつたなど、まだ開院間もないのでありますが、大に感謝されてゐます。診察を受けるにも、また歸るにも、丁寧にお禮を言つて行きます十二時までの受附締切で、診察の終つたのが二時過ぎでした。濟南に於ける救世軍の隣人愛の實行が、愈々、軌道に乘つて、日支人の眞の心の融和をもたらし得る希望と確信とを得たやうに感じられます。衣食住その他すべてが慣れない不便の地に於て、種々なる苦新心勞多々ある中にも、かうした貴い御率仕をさせて頂いてゐることは、全く神様の御惠と、一同感謝致して居ります。牡行會の際、中將より頂きました「ユイテリンジンアイヲジッカウセヨ」の御言葉を體し、その使命と責任とを果し得るやう、祈つて居ります。

(四月十七日濟南にて　佐藤理三郎)

日本救世軍
診療時間
毎日
上午九時半
至十二時
星期日及放假日
休診
免
診療科目
內科・外科・小兒科・
眼科・婦科・
耳鼻喉科・
診療費
濟南市城內總東巷東華街九號

廣にあふれ、二十餘位ある待合室を備へてゐるが、なか〳〵落ちついてゐません。又、私共の想像以上に、皆よろこんで醫療を受けるので、將來に對して大なる希望を與へられました。切開の必要を話せば、直ちに快諾、裸衣下と言はないうちから、もう已に肌をぬぎ、乳房までも出して診療を待つ婦人もあります。どうしてなか〳〵、西洋醫療を望むこと、大なるものがあります。それは一見して感じられます。昨日切開した頭部淋巴腺の患者、今日はすつかり苦痛が取れたと、大變喜び感謝であります。氣管支炎の子供も、二日分

濟南の日語講習所開始

「日本救世軍日語講習所」は、北支濟南城内東華街九號にて、四月十日より開始した。省公署市公署の役人五十餘名出席、尚、續々申込中である。同地に於ける「救世軍報國茶屋」では三月中、散髪及び顔剃合計千六百六十四人に上つた。

佐藤院長歸京

既報の如く、北支濟南に「日本救世軍濟南診療所」を設けるため渡支した救世軍病院長佐藤理三郎博士は、開設の目的を果し、後事を山崎女醫等に託して、四月二十四日朝、無事歸朝された。

『ときのこゑ』
1939年10月1日

ときのこゑ　第一千四十四號　（第三種郵便物認可）

北支濟南だより

大陸の太陽は沈むのも遲いが、登るのも遲く、七時頃にならないと、本當に朝になつたやうな氣がしません。それでも兵隊さん達は、六時には起きて、夫々の務を果して居ります。ですから七時ごろになると、そろ〳〵鐵釘の軍靴の音が、庭にひびいて來ます。氣の早い兵隊さんは、もうレコードをかけたり、ピンポンを始めたりして、今日の生命を御國のために獻げて居る勇士とは思はぬほがらかさです。お父さん兵隊さん、兄さん兵隊さんもみんな、子供のやうにはしやいで居ります。

×

私共は室を掃除したり、洗濯をしたり、

植村少將
十月十日歸朝

救世軍最高會議に出席した日本救世軍司令官植村少將は、救世軍大將の選擧を終り、九月六日英京出發、十月九日横濱港にて歸朝の豫定の所、歐洲に戰爭起り、豫定を變更するの餘儀なきに至り、九月十六日にニューヨークに安著の電報あり、十月十日頃、龍田丸にて横濱港の筈である。

憲所當番はしきりに、朝食の用意を致します。やがて粥粥を嚥み お茶を終ると、一同食事をすませて、出發の準備にとりかかります。斯して車に乘り、城内に在る我等の戰場「救世軍濟南診療所」へと急ぐのです。商店街を通る間は、時々日本人にも出會ひますが、城内に近づくに連れて、日本人は自分等だけで、何處を見ても、私共と自由に話の出來さうな人は見つからなくなります。初めの中はずゐぶん心細さを感じたものでした。しかし今ではそんな事にも慣れてむしろ城内の異つた街の樣子に、親しみを感ずるほどになつて來ました。不思議さうな顏をして私共を見る人々に微笑を投げかけるほどになつたのです。彼等の心のうちに入り込まうとしつつある自分の姿を發見したときはなんとも言へない嬉しさを覺えました。

×

救世軍濟南診療所を訪はれた
○○陸軍々醫少將閣下一行

三十分ほどして車から下り、門を入ると、診療所の患實なる番人、劉軍曹夫妻が、布袋さんのやうな身體を何度もゆすつて、迎へて與れます。劉軍曹夫人は此處で番號札を患者に渡します。待合室には、四、五十名が、いろ〳〵な姿態をして待つて居ります。或者は丁寧におじぎをし、驚いたといふ風にぽかんとしてをる。でも何か嬉しさうな心組は見られる。私共は茶を飲む間もなく、直ちに白衣に著かへて、診療開始。一號、二號と劉軍曹に呼ばれて來ると劉救世軍中尉が、新患者の容態をたづねて記入する。患者は皮膚科、眼科（主にトラホーム）と外科が多いやうですが、輕症のうちに來る人は少く、發病以來一月、二月、ひどいのは四ケ月ぐらゐして、病氣も可成り重くなつたのが多いやうです。高熱で、私共だつたら絶對安靜さしておきさうな患者でも、うす著で平氣で歩いて來ます。酷い傷口の腐敗のために、部屋中が惡臭で充滿するやうなこともあるが、山崎女醫はじめ、川田丸山の兩看護婦達は、嫌な顏もせずに、眞摯に親身になつて愛の奉仕に盡してをられる。其の姿には全く神々しいものがあります。健康でも不潔な感じのする人のむつとするやうな患部に、唇をつけ吸はんばかりに接近して處置するのです。側で見てゐる私が、はら〳〵するやうなことも、日に何遍かあります。神が彼女たちの肉體を纏る靈魂に恩惠を加へたまふであらうと信ずる者であります。

×

救世軍濟南診療所に於ける
山崎女醫の支那人兒童診察
右端に立てるは兒童の祖母

かうした緊張が午後の一時ごろまで續きます。毎日、百人近い患者が、來た時よりも輕らかな氣持で、歸る姿を見送り、誰もゐなくなると、私達は初めて空腹を感じます、それから器具消毒、書類整理等をすますと、冷いにぎり飯を、はんごうから出して手に取ります。銃こそないが、私共も亦、戰地に在る一軍人であると、しみ〳〵感じます。みんな喜んで歸途につきます、途中で炎熱の街に埃にまみれつつ銃劍持つて立つ皇軍勇士の姿を見るとき、心からなる感謝の目禮をします。お蔭樣で今日も無事であつたかと思ふと、眼がしらに熱いものを感じます。私共も亦、愈々託せられた職分の道に進まんものと決心を新にしながら、宿舍「救世軍報國茶屋」に歸著いたします。と言つても、のんきにするわけにはゆきません。此處にも入れ代り立ち代り集れる兵達さん達が待つてをられる。暫くなりと、樂しい故郷のホームに歸つたやうな思をおさせしたいと、出來る限の心配をいたします。斯して一日が過ぎゆくのです。皆樣の御後援を感謝しつつ。（北支濟南にて　救世軍大尉　田中太郎）

私は懐しい場で働くやが優しく色が何時しか姉
した。私
くに楽に動

『ときのこゑ』1939年12月1日

一ぶ一　昭和十四年十二月一日　（毎月二回）　ときのこゑ　第一

小さな奉仕も興亞大業の一部

支那民衆から親しまれる

左は濟南の田中救世軍大尉よりの書便である。

濟南の「救世軍日語講習所」は九月十三日以來、日曜日を除いて毎日開講致して居ります。生徒の出席率は前學期に比べて、非常に好成績で、毎日四十名内外あり、空席のあることも稀であります。此度、四つ新しい席を設へましたので、とうにか間に合つて居ります。

二入學希望者二　に益々ふえますが、收容出來ないので困つて居ります。當校第一期卒業者の一人を、日本人商店に就職斡旋いたしました。又、此度、「救世軍診療所」受附係に軍屬として雇入れたのも、第一期卒業生の一人であります。其の他にも相當にあることと思ひます。私共の働が、大に役立つものであることを、確信して居ります。「皆で本を讀みませう」は支那語で「タアチヤアトウイ・クワアルネンネンバ」です。讀びは念と云ひます。こんな時には、日本でネンネンといふ事は、母親が赤ん坊をねがす時に云ふと言つて、節をつけて云うてみたり、又、支那では月見は三大節の一つで、中秋月餅といふお菓子が賣り出されるのですが、日本では月見ダンゴといふと説明すると、みんな非常に興味をもつて聞きます。言語は心と心とを結びつける力があり、お互を最もよく了解さしてくれるやうに思ひます。毎日、生徒と共に樂しい時を過すことが出來て、喜んでゐます。（以上九月二十一日附）

濟南に於ける田中救世軍大尉と山崎女醫と白衣の天使及び姑娘

二一同元氣に二　又、愉快に活動して居ります。診療所の方も患者は益々ふえて、百名を突破する日があります。此の度、日本救世軍濟南日語講習所」第一期卒業生の一人が、當診療所の受附をして働いてくれるやうになりました。まだ日本語も十分であるまいと思はれてゐたのに、病名を書き込んだりして、山崎先生を驚かして居ります。日華のなごやかな交りの花が、我が診療所の上に咲き初めましたことは、喜ばしい事であります。或婦人は二三の病院通をしてどうしても治らないで、非常に失望してゐたのが、當診療所に二ヶ月程一所懸命通つた結果、此の程全快いたしました。大變喜んで、全快後も時々診療所に顔を出して、花や柿を持つて來たりして、私共に感謝を現にさうとしてゐます。先日、診療所の職員達と城内の裏街を散歩すると、あつちにもこつちにも、にこにこ顔が見受けられ、東華町（診療所所在地名）の人だよと、口口に言つて、

二親密の情を二　示してくれました。私共が、病氣の時は何時でもいらつしやいと言ふと、につこり頭を下げる者もありました。言語も通ぜぬ異國に來て、こんなにも樂しい氣持で散歩出來ることは、信じられないやうな氣がしてなりませんでした。さう思ふと自分の郷里にも似た點はしい能力を感じました。私共のささやかなる奉仕も興亞大業の一部であることを信じ、感謝に堪へません。

八月中、舊患五十七名、新患二百七十名。合計三百二十七名、延人員七百一名、平均一日の患者數四十四名であります。大人四百四十二名、小人二百五十九名でした。（以上九月二十二日附）

彦坂廉二君戰傷死

押上小隊兵士彦坂廉二君は、去る七月二十七日、中支方面方村北方の小馬灣附近に於ける戰鬪で負傷し、かねて野戰病院に加療中であつたが、八月二十一日、遂に壽の戰傷死を遂げた。遺骨は十一月八日、川崎に着き、母堂、其の他の人々に迎へられ、兄、彦坂治一氏（出征中）の自宅

軍事保護院東京療養所に於ける救世軍參謀樂隊の慰問演奏

『ときのこゑ』1940年6月1日

濟南だより

支那人の爲の無料診療開所一年を顧みて

日支の和合日々深まりゆく

春も深まり、北支は間もなく夏がやつて參りません。只今アカシヤの花盛りで、獨逸國領事館、濟南公會堂の邊を、毎日洋車にゆられながら通りかゝりますと、風のまにまにうすい良い香が致します。去年の今頃は、濟南に入つて日も淺かつた爲か、何時も通る路ながら、こんな所に、こんな美しい花が、澤山咲いてゐた事を記憶して居りません。たゞ〳〵變つた支那の風俗に驚いて、心のゆとりがなかつたんだなと思はれます。

濟南に於ける山崎女醫と看護婦さん達

一年も居りますと、此の大陸に一種の親しみさへ感ずる程になりました。殊に私達の仕事は支那人相手でありますから、支那人特有の仁義とか、人情に接し、又無くて難い美點を有つてゐる事に氣付きます。前に川田、丸山兩看護婦が、一年の任務を了へられて歸還され、只今その交代に婦野、黒崎兩姉を迎へる事が出來、何時もに變らぬ診療が續けられて居ります。救世軍のかうした樣い働きに加へられて、日支親善の一端ともなり、その目的に向つて進みつゝある事を、よろこんで居ります。

顧みますれば去年三月二十七日、佐藤救世軍病院長に伴はれて、大きな希望と意氣とを以て、北支にやつて參りました。當時柳川救世軍少佐を始め、幾多の方々の御盡力により、四月十三日より城内にて免費診療を開始致しました。始め二三日は佐藤院長がるらつしやいまして、何かと力強く思ひましたが、何分御多忙な先生を何時までもお引留めも出來ず約一ケ月ほんとうに近く御指導を仰ぎました。

それから二人の看護婦に助けられながら、毎日、日本人の殆どゐない城内へ入つて、時には不氣味に感じた事もありました。そのやうにして、どうにか大陸の夏も過し、冬も越つて參りました。只今では八十名前後の患者で、やつぱり不潔な土地でありますから、皮膚科、外科、眼科、癩病、眼科では勿論トラホーム、外科は下腿潰瘍の如きものが多いやうに思はれます。瘧疾などもかなり多くその切開もやつて居ります。支那の子供は強いですから、時には癲癇藥使はないでやる事もあります。夏時分はマラリヤも相當あつたやうに思はれます。レプラも相當ゐるやうでありますが、私達の方へはほんのたまにしか現れません。免費診療でありますから下層階級ではありますが、此の頃はだん〳〵きれいな患者が來るやうになり、左程きたないと思はなくなりました。

診療所は靜かな廣い所で、日語講習所もその一角にあります。私共が朝九時半頃着きますと、待ち構へてゐた患者は「來了」「來了」と云ひながら、嬉しさうに受付の方へ急ぎます。御互に此頃では恐怖とか、不安等といふ感じはなく見つ見られつゝ歸つて行く姿こそ日支和合をはかる、何物にも勝るものではないかと思はれます。

はじめの間は言葉がわかりませんし大きな表情で手振り、足振り、同時に大きな聲で無遠慮にと云ひたいですが、彼等には、それが普通の事で何とも思つてゐませんが、私達には何時も喧嘩をしてゐるやうに思はれ、又隨分失禮な態度をする人達だ等と思つて、氣を悪くした事もありました。

馴れて來て支那人の習慣或は言葉も少しは解りますと、その氣持も或る程度察せられ、かへつて仲仲愛嬌があつてよいものであります。

北支濟南の日本救世軍濟南日語講習所にて職員、講習生等の親睦茶話會

支那人は肌を見せないと聞かされてゐましたが、成程普通はどんな人でも靴下をはき、襟と手丈しか出して居りません。日本人のやうに素足で歩く事は決してありません（雖足なども未だ澤山見られます）しかし診察の時は何の躊躇もなく服を脱ぎます。支那人獨特の習慣風俗等に就き色々感じて居りますが、長くなりますから矣禮させて頂きます。

田中救世軍大尉は一週一度位診療所にいらつしやいますが、その時には職員一同いさゝか緊張致します。受付には支那姑娘も居ります。毎日氣持よく働いて呉れ、時々美しい日本の話をしますと、是非日本に行きたいと云つて居ります。通譯を兼ねて働いて居ります。日語も仲々上手であります。何時か又「ときのこゑ」を通じて、皆様に御便りを出す機會もある事と思ひます。

無料診療開所一年を顧みて、色々と感慨無量のものがありますが、到底その萬分の一も盡る事が出來ない私でありますが、救世軍の働きに賛意をもたゝ皆様方に、私もその一員として、私に責任をもたせて頂いてゐる北支濟南救世軍診療所の近況報告にかへて、紙面をふさがせて頂きます。最後に何かと直接御面倒を見て頂いて居ります田中救世軍大尉に御禮申上げます。

尚又、現在の濟南邦人數は月々増加し、一萬六千人と云はれて居ります。住宅難、食料難と云ひたい位であります。人の集る所、そこには必ず病氣が生じてゐます。日本人の病院も相當ありますが、尚新築だの、増築だのと云はれて居ります。出來れば私達も邦人に對し、醫の手を伸べたい氣持で一杯であります。

昭和一五・四・二六

山崎松子

回目を覺し、堅く信仰に立ち、雄々しく、かつ剛かれ、一切のこと愛をもて行へ。（コリント前一六・一三）

上：『日本救世新聞』1940年9月1日
中・下：『ときのこゑ』1940年5月1日

濟南の

救世軍診療所だより

七月も半過き、日本内地も日一日と暑さが加はつて來る事と思ひます。こちらも所謂大陸の夏の最中とて、格別の暑さであります。皆様方も夏期休暇で或は山に、或は川に、來るべき時のエネルギーをたくはへつゝ、休養されてゐられる事と思ひます。濟南も只今はすつかり平時體制といふやうな現狀でありまして、全く日本内地のやうな氣が致します。いよ〳〵日本救世軍の爲に盡したいと思つてゐます。先は暑さ御見舞かたゝ〳〵（山崎松子女醫）

炎熱燒くが如き酷暑の候となりました内地の皆々樣には御健勝にて益々御奮闘の事と存じ上げます。私共一同も元氣にて差なく勤務致して居ります。御休心下さいませ。今後益々勵みて皆樣と共に神の御榮の爲に用ひて頂き度く願つて居ります。先づは暑中御伺ひまで（黒崎千代看護婦）

酷暑のみぎり、其の後叔國の皆樣には日に御健勝にて御活躍の事と御遠察申上げます。私共も日に神の御守りの下に健康に恵まれ、微力ながらも日支親善の爲、心からの愛の御奉仕をなさんと勵んで居ります。どうか私共の爲、皆樣方の御加護をお願ひ致します。先は御暑中御伺ひ迄（長野浸子看護婦）

北支濟南の

「救世軍報國茶屋」だより

克己週間

祈りつゝ募金し行かば春雨も
恵と降りて道たのし

濟南の田中救世軍大尉より左の手紙が屆いた。「救世軍報國茶屋」は相變らず兵隊さん達に喜ばれ、「診療所」及び「日語學校」は支那民衆に喜ばれてゐる。

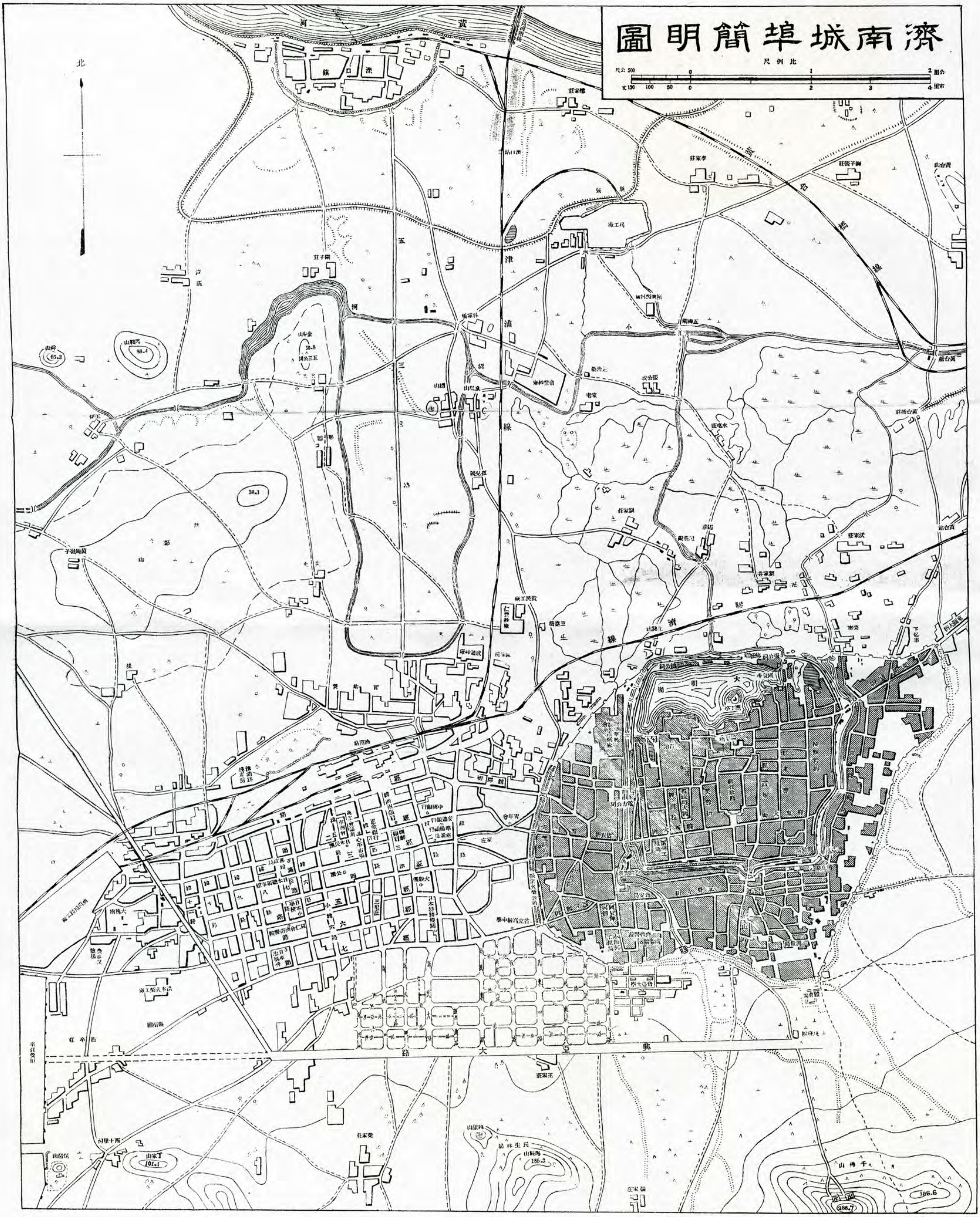
北支濟南に於ける救世軍診療所
山崎女醫が支那人患者に手當してゐる所

當地も近頃はすつかり暮らしくなりました。柳の芽も薄みどりになり、郊外散歩には實によい時候です。

氣候がよくなりますと、救世軍診療所の患者も多くなり、最近では毎日八十人以上を診療いたして居ります。救世軍日語學校は非常に好成績にて、毎日空席がない程の盛況であります。現在講師五人にて内容も此の種學校としては最も充實して居ると存じます。

救世軍報國茶屋は、「濟南にはこんなエイ處があるのか」と云ひながら入つて來る兵隊さんの聲が時々きこえます。新聞雜誌、ピンポン、レコード、散髪等一つとして喜ばれないものはありません。寫眞の奉仕も又忘れる事の出來ない當所の奉仕であります。みんな元氣に與へられた職分の道に一生懸命はげんで居ります。

北支濟南にて　田中　太郎



濟南城埠簡明圖
比例尺
北
黃河
津浦線
膠濟線
大明湖
千佛山